

サイバーセキュリティを見直してみよう

サイバーセキュリティを高めるための対策の一部を紹介します。普段使っているパソコンやスマホの設定や、使い方に関する心構えなど、きちんと対策できているか確認してみましょう。

スマホは画面ロックを

自分しか分からない数字の組み合わせや、指をなぞるパターンロックを設定し、他人に中身を見られないように。使わないときは、こまめにロックを。

パスワードは複雑に

大切な情報であるパスワードは、予測できないように「10桁以上の英大文字小文字+数字+記号」で。顔認証や指紋認証の併用でさらに強固に。

システムやアプリは最新版で

端末のシステムやアプリは、最新版に更新されているか定期的にチェックを。

メールの内容を信用しすぎない

メールの文面だけで完結しないものは、怪しいメールとして警戒を。添付ファイルやサイトへ誘導するURLを付けて「今すぐ確認して!」と閲覧を要求するメールは要注意。

家庭内でルールを決めよう

トラブルの例を子どもに伝えるなど、サイバー犯罪に巻き込まれないような対策を。インターネットは緊急時の連絡手段にもなるので、家族間での活用の話し合いも◎。

デジタル技術は、大人世代からすれば「あると便利」ですが、今の子どもたちにとっては「使うことが当たり前」です。今後もデジタル技術によって世の中はさらに発展していきますが、同時に社会のルールやセキュリティ対策も変化していくでしょう。社会にあるリスクを正しく理解し、安全に活用していくことで、デジタル技術は新しい可能性や発想につながり、豊かな暮らしを実現してくれるものになっていくでしょう。

用語解説

サイバーセキュリティ

インターネットやコンピュータを利用する上で、大切な情報が外部に漏れたり、ウイルスに感染してデータが壊されたり、使っているサービスが使えなくなったりしないように、必要な対策をすること。

ランサムウェア

身代金を意味する「ランサム」とソフトウェアを組み合わせた造語。標的のファイルを利用不可能な状態にした上で、元に戻すことと引き換えに身代金を要求するウイルス。

みなさんの「困りごと」を教えてください

「デジタルが苦手」、「これってデジタルで解決できないの?」、「日常でこんな悩みがある」など、みなさんが暮らしの中で感じている困りごとをお聞かせください。



▲ご意見はこちら



お問い合わせ先 総務課 行政係 ☎ 0965-52-7111



暮らしに身近になってきた ICT・デジタル技術について、さまざまな情報を発信する連載企画「#デジ活」。今回は、「サイバーセキュリティ」です。デジタルの世界でも、病気になったり、犯罪に巻き込まれるリスクが潜んでいます。この機会に、日頃のデジ活について見直してみませんか?

デジタルの世界も、予防が大切

私たち人間は、細菌やウイルスに感染して体調に異常が起これば、病院で治療を受けて周囲に感染が広がらないようにしています。そうしなければ、家族や友人などが病気になって、大きな影響を与えてしまうからです。近年は新型コロナウイルスの拡大によって、マスクや手洗い、ワクチン接種といった公衆衛生には、これまで以上に気を配るようになってきました。

デジタルの世界にもウイルスは存在

しており、ウイルスに対する薬や予防策はまとめて「サイバーセキュリティ」と呼ばれています。世界中の情報にアクセスできるインターネットは、今や暮らしと切り離せない存在になっており、ネット上で起きるトラブルも増えてきています。

「ネットの公衆衛生」もきちんと理解し行動することで、快適で安全な社会につながります。



日常に潜むリスクとサイバー攻撃

ネット上の犯罪やウイルスに巻き込まれるリスクは、さまざまな場所に潜んでいます。例えば、知人やショッピングサイトになりすまし、メールなどを使って偽サイトに誘導してお金の情報を送信させる「フィッシング詐欺」や、ウイルスで乗っ取った機器を人質にして身代金を要求する「ランサムウェア」など、さまざまな手法があります。これらは人間の心の隙をつくものであり、現実でもネットの世界でも、心の隙を突かれるとどんなセキュリティも破られてしまうのです。

また、友だちや共通の話題を持つ人とコミュニケーションが取れる SNS にもリスクは潜んでいます。時には SNS 上で友だちになりすまし、お金のやり取りを誘導されたという被害も出ています。また、良かれと思って拡散した記事やアプリの情報に、実はウイルスや詐欺サイトになっていることも。

ネット上でアクションを起こすときには「間違いのない情報か」「問題が発生しないか」と注意してみましょう。



メールやショートメール



ウイルス・詐欺サイトの入り口に

